



佐土原ロータリークラブ週報



ロータリーを
祝おう

100年の歩み

会 長: 林 厚 雄	会 計: 柳 田 光 寛
副 会 長: 岩 切 正 司	会 報 委 員 長: 宮 原 建 樹
幹 事: 藤 堂 孝 一	

2004-2005 年度 R I テーマ

第 857 回 平成 16 年 10 月 20 日 (水)

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 食 事 の 時 間
3. ロータリーソング
「奉 仕 の 理 想」
4. 四つのテストの唱和
5. 会 長 の 時 間
6. 幹 事 報 告
7. 委 員 会 報 告
8. 職 場 訪 問 鐘
9. 点 鐘

第 856 回の記録 平成 16 年 10 月 13 日 (水)

☆会長の時間 会 長 林 厚 雄 君

皆さん今日は、今日は第 856 回の例会です。

今日は、ロータリーの歴史の 3 回目です、青年期から弁護士になるまでの話しを致します。

ポールは学校を転々としました。14歳の頃乱暴な遊びをすると言う事で、学校を1年間で除名になり、兵式教育のグアモント・アカデミーに入学しました。それから大人しくなり持ち前の勝れた指導力を発揮して、善良な学生生活を送りここを無事卒業できました。

ポールはこの学生生活を伯父のジョージ・フォックスの家に寄宿していましたが、ジョージは無欲で慈悲深い人で、患者で生活上困った人の救済に熱中するあまり、治療代の請求など無とんちゃくでありました。ポールは伯父のその善意に強く感銘していたそうです。

ポールが19歳の時、祖父が付けてくれた、家庭教師の、ひたすら勉強に励みプリンントン大学に合格しました。しかし、20歳の時に、ポール人格形成大きな影響を与えた祖父のロバート・ハリスが86歳でこの世を去り、学費のこともあり、やむなきプリンントン大学を退学しました。

そこでポールは、兄セシルが勤めていた大理石会社に1年契約で勤めていましたが、ある日のこと祖母パメラを訪ねますと、祖母がポールに期待している唯一のものは、ポールが弁護士になる事がわかりました。そして、進路を弁護士と決めて勉学に励むことになったのです。

ポールが22歳の秋、その甲斐あって、アイオワ州立大学法学部に入学できました。ところが、入学して2ヶ月足らずして、祖母が亡くなってしまいました。78歳だったそうです。これで、最も慕って、誰も及ばないほど可愛がってもらった二人の肉親と永遠の別れをすることになってしまいました。

しかし、悲観にくれてるばかりにもおれず、祖母の念願をかなえるために、よりいっそうの努力を重ねて大学を卒業し、めでたく弁護士の資格を取得しました。ポールはこの時23歳になっていました。

卒業式の講師の祝辞の中で「卒業しても5年間位は弁護士の実務につかずに、広く社会勉強をした方が将来その体験は弁護士をする上で大変ためになる」という話を聞かされ心を動かされました。そして5年間の期限を定めて世界を放浪してみようという決意で旅立ちました。

カルフォルニア州で、新聞記者、干しぶどうの包装工場で働いたり、ロサンゼルスビジネスカレッジの講師などをして8ヶ月間過ごしました。

翌年はコロラド州デンングアールで舞台俳優、カーボーイを数ヶ月、雑誌会社の編集部、ホテルの夜勤マネージャー、大理石のセールスマン、そして新聞記者、と転々としていました。そして、船の水夫になり、イギリスに渡ったり、大理石商の巡回販売人として、米国南部諸州とキューバ・パハマ諸島を廻っており、更にヨーロッパのスコットランド、アイルランド、ベルギー、フランス、オランダ、イタリアをも廻っていました。

スコットランドのエジンバラには、やがてポールが結婚することになるジーン・トムソンが住んでいることはポールは全く夢にも想像していませんでした。

ポールが28歳の時、放浪5カ年間の計画を4ヶ月間残してシカゴに帰りました。

例会場: 石崎浜荘 0985-73-1913 事務局: 〒880-0211 宮崎郡佐土原町大字下田島 20614-29

例会日: 毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 TEL: 0985-73-7170 FAX: 0985-73-7170

